

第63期 株主通信

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)



ヤマシンフィルタ株式会社

証券コード：6240

株主メモ

上場市場	東京証券取引所市場第一部
上場日	平成26年10月8日(東京証券取引所市場第二部)
証券コード	6240
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
基準日	定時株主総会については3月31日
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel: 0120-288-324 (通話料無料) (受付時間: 土日祝祭日等を除く 平日午前9時～午後5時) 株式に関するお手続き(みずほ信託銀行) https://www.mizuho-tb.co.jp/corporate/daikou/index.html
株式の売買単位	100株
公告掲載URL	公告は電子公告により行います。 http://www.yamashin-filter.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式等に関するマイナンバーお届出のご案内

2016年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きにおいてマイナンバーの利用が開始されています。

株式等の税務関係の手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主さまのマイナンバーについては、お取引の証券会社等へお届出ください。

〈上場株式等をお持ちの株主さま〉

証券会社等にて株式等を管理・購入・取引されている場合には、証券会社等へお届出いただく必要があります。お手続き方法など詳細につきましては、証券会社等へお問い合わせください。

※不動産投資信託(REIT)、ETF、JDR等の国内証券取引所にて取引される株式以外の金融商品も含まれます。

〈未上場株式をお持ちの株主さま〉

ご所有の株式の発行会社または株主名簿管理人にお届出いただく必要があります。お手続きの詳細につきましては、株主名簿管理人にお問い合わせください。

マイナンバーを記載する主な支払調書 * 配当金等に関する支払調書
* 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバー制度^(注)とは、国民一人ひとりに配布された番号によって、複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための社会基盤です。
(注)行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年5月31日法律第27号)

マイナンバーの取扱いについて マイナンバーの取扱いは、法律により厳格な保護措置が設けられており、利用範囲は社会保障・税・災害対策の行政手続に限定されています。

マイナンバーの提供について 2016年1月以降、新たに証券会社とお取引をされる株主さまは、マイナンバーを証券会社に提供する必要があります。2015年12月以前より証券会社とお取引をされている株主さまも、2018年末までにはマイナンバーの提供が必要です。

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま…お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主さま…下記株主名簿管理人のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-84-0178

IR伝言板

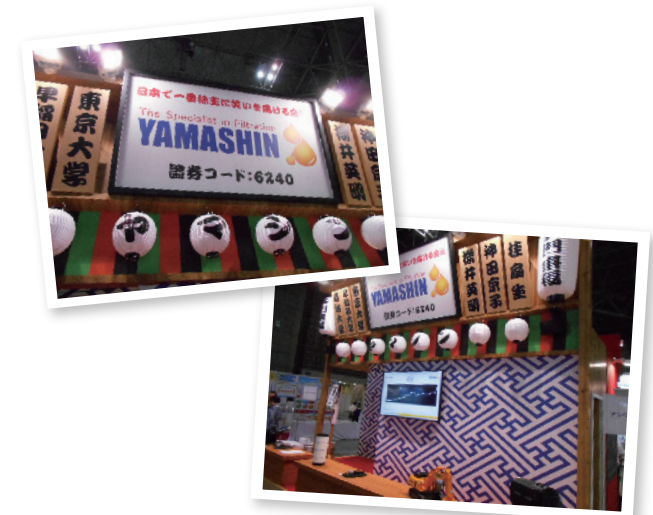
株主の皆様からのご質問にお答えいたします。

Q. IRフェアへの出展予定を教えてください。

A. 開催概要は下記をご覧ください。

IRフェアでは、「兜町カタリスト」編集長の櫻井英明氏を招き、当社事業の強みや今後の株価の見通しを、専門家の立場から来場者の方々に分かりやすく説明していただく機会をご用意しております。

また、大学生の落研(落語研究会)による「創作落語・大喜利選手権2018」の本選会をフェア中に開催いたします。学生には、お題として“ヤマシンフィルタにちなんだキーワードを入れた創作落語”に取り組んでいただきます。どこの大学が勝利を手にするのかご期待ください! なお、本選会はライブ配信を行い、Web投票を実施する予定です。皆様も是非ご参加ください。



当期に行われたIRフェアでの当社寄席風ブース

開催概要

日程: 平成30年8月31日(金)～9月1日(土) 10:00～17:00
会場: 東京ビッグサイト 東4ホール(東京都江東区有明3-10-1)
入場料: 無料



代表取締役社長 山崎 敦彦

仕渡過事

ろかじにつかふる

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ここに、第63期株主通信(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)をお届けいたします。

当社は建設機械フィルタの専門メーカーとして60年を超える実績をもち、建設機械メーカーとともに性能・品質の向上にまい進してまいりました。今後も健全、着実な事業成長を図ることで、常に最高品質のフィルタを広く社会に送り出し、挑戦しつづける企業を目指していきます。

引き続き、株主の皆様のご期待に添えるよう努力を続けてまいりますので、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

平成30年6月

Q1 平成30年3月期(当期)の業績と取り組みについてお聞かせください。

A1 当期における建設機械市場は、日本では堅調な企業収益を背景に景気回復が持続し、需要は前年を上回りました。北米では需要の増加が継続し、欧州でも需要は堅調に推移しました。中国ではインフラ投資拡大に伴い大幅な需要の増加が継続し、東南アジアでも需要が増加しました。

このような環境のもと、当社グループは経営戦略上の中期的な目標として「建設機械フィルタの専門メーカーから総合フィルタメーカーへの飛躍」を掲げ、中期的な視野に立った成長投資のため、研究開発体制の効率向上のための研究開発拠点の新設に係る土地・建物購入投資、生産設備、研究開発設備等への設備投資、将来のM&Aを含む資本・業務提携等を目的に92億22百万円の資金調達を実施しました。

そして、当社グループの強みである油圧ショベルの作動油回路用フィルタ製品を主軸に、フィルタ製品のラインナップの充実を図り、建設機械メーカーの需要拡大に努めました。また、中国・アジア市場では補給部品の純正率向上に建設機械メーカーと共同で取り組み、純正部品の採用率向上に努めました。さらにはプロジェクト活動「Project PAC 17」を着実に遂行することで収益性を改善し、企業価値の向上に取り組んでまいりました。

その結果、期中に上方修正を行いました。その後もさらに中国を中心としたアジア、北米の需要が堅調に推移し、各主要得意先の増産計画に対応しながら需要拡大に努めたことにより、当期の業績は売上高131億68百万円(前年同期比31.6%増)、営業利益19億10百万円(同99.5%増)、経常利益18億24百万円(同95.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益12億49百万円(同95.2%増)となりました。

Q2 平成31年3月期(今期)の業績予想と取り組みについてお聞かせください。

A2 今期の建設機械市場の需要見通しは、平成30年3月期に引き続き堅調に推移することが見込まれています。その結果、当期の新車需要を若干上回るものと想定しております。当社グループは、堅調に推移する新車需要を確実に獲得するとともに、既に稼働している建設機械向けのフィルタ製品の交換需要を的確に掘り、アフターマーケット事業を推進してまいります。

現在の取り組みと進捗につきましては、まず建機用フィルタのライン品の故障予知、ICT技術の提案として、「SWIFTROCK™」という清浄度センサの開発に取り組んで

います。建機のセンサは採用まで時間がかかりますが、一歩ずつ確実に進めてまいります。また、新素材を使ったリターンフィルタの提案として、ナノファイバーを使用したフィルタを開発中です。こちらは今期の第2四半期には採用が始まるという段階まですでにきており、市場に出ますと現在製品の約3倍の寿命が実現します。他社には技術的に真似ができません。補給部品の純正率向上に貢献するとみています。3倍の寿命ということは、需要が3分の1になると思われるかもしれませんが、純正率向上に大きく寄与し、数量的には減らないとみています。

また、原価低減、販売管理費の削減等、収益性の改善につきましては、当期の「Project PAC 17」を一步進めた「Project PAC 18」を立ち上げ、同プロジェクトに当社グループ一丸となって取り組み、利益の確保に最大限努めてまいります。

なお、当社は為替の影響がほとんどない経営体質が続いており、営業利益は非常に良い状態で推移しています。今期以降も為替に影響されない経営体制の構築を積極的に進め、さらなる利益を生むよう企業体質の強化を継続してまいります。そして、当期に調達した資金を使った今期から始まる投資は、将来的には新しいポートフォリオ、収益の拡大に貢献すると考えており、今期からの3か年で当社を大きく成長・飛躍させるべく取り組んでまいります。

こうした取り組みにより、今期の業績は売上高140億円(前年同期比6.3%増)、営業利益23億50百万円(同23.0%増)、経常利益23億40百万円(同28.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益16億円(同28.0%増)を予想しています。

Q3 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A3 当社の利益配分に関する基本方針は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、将来の成長に向けた戦略的投資に必要な内部留保の充実と総還元性向を踏まえた利益還元とのバランスを勘案して決定することとしています。

上記の基本方針ならびに当社を取り巻く経営環境等を総合的に勘案し、期末配当金は1株につき2.2円といたしました。なお、当社は平成29年12月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で分割する株式分割を行いました。そのため、株式分割前の配当額に換算しますと11円となり、中間配当金7円と合わせ、年間配当金は前期の12円から実質6円の増配となります。

株主の皆様には今後とも末永いご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

財務データ

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (平成29年3月31日)	当期末 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産	6,695	17,197
固定資産	3,462	3,567
有形固定資産	1,272	1,653
無形固定資産	292	412
投資その他の資産	1,897	1,501
資産合計	10,158	20,765

(単位：百万円)

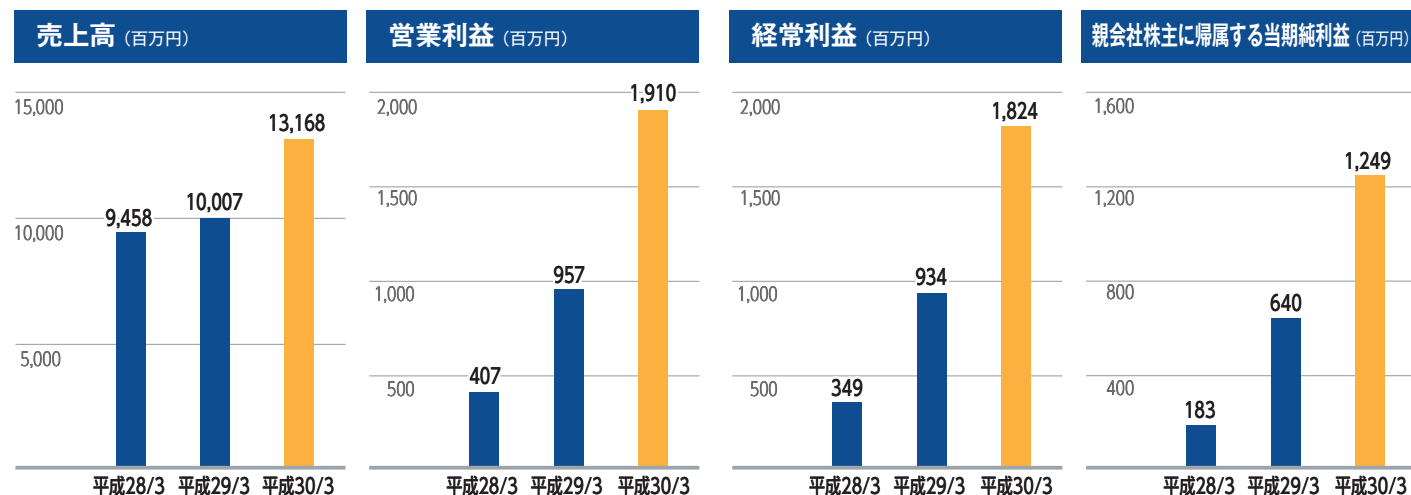
科目	前期末 (平成29年3月31日)	当期末 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債	2,374	2,969
固定負債	1,131	797
負債合計	3,505	3,766
純資産の部		
株主資本	6,613	16,969
その他の包括利益累計額	39	30
純資産合計	6,652	16,999
負債純資産合計	10,158	20,765

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (平成29年3月31日)	当期 (平成30年3月31日)
売上高	10,007	13,168
売上原価	5,544	7,094
売上総利益	4,463	6,074
販売費及び一般管理費	3,505	4,163
営業利益	957	1,910
営業外収益	24	18
営業外費用	47	104
経常利益	934	1,824
特別利益	—	34
特別損失	2	3
税金等調整前当期純利益	931	1,855
法人税等	291	606
当期純利益	640	1,249
親会社株主に帰属する当期純利益	640	1,249

連結財務ハイライト



News & Topics

当社の各種メディアへの登場が続いています

本年に当社代表取締役社長山崎敦彦が掲載もしくは出演しましたビジネス情報番組、新聞、情報紙等をご紹介します。

当社はIR活動の一環として各種メディアへの出演、掲載を今後も継続してまいります。

平成30年

- 1月21日(日) 週刊金融投資情報紙「日経ヴェリタス」
- 2月20日(火) ラジオNIKKEI「ザ・マネー」出演
- 3月12日(月) 経済週刊誌「日経ビジネス」
- 3月18日(日) テレビ番組「賢者の選択 Leaders」出演
- 3月30日(金) 「日本経済新聞」建機業界特集
- 4月10日(火) 「日経産業新聞」リーダーの肖像



賢者の選択
Leaders

ヤマシンフィルタ株式会社
代表取締役社長
山崎敦彦

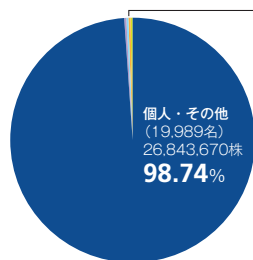
会社概要 / 株式の状況

会社概要 (平成30年3月31日現在)

商号	ヤマシンフィルタ株式会社(旧 山信工業株式会社) (英文名称 YAMASHIN-FILTER CORP.)
所在地	〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル16階
設立	昭和31年4月
事業内容	建設機械用フィルタ、産業用フィルタ、 プロセス用フィルタ及び関連部品の製造・販売
資本金	5,434百万円
代表者名	山崎 敦彦
従業員数	単体：129名 連結：514名
認定・取得	ISO9001：2015 (JIS Q 9001：2015) 認証取得 ISO14001：2015 (JIS Q 14001：2015) 認証取得

株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数 203,580,000株
発行済株式の総数 69,190,000株
株主数 20,244名



証券会社 (35名) 1,220,743株 0.17%
外国法人等 (84名) 3,661,797株 0.41%
金融機関 (22名) 12,287,000株 0.11%
その他国内法人 (113名) 25,176,650株 0.56%
自己名義株式 (1名) 140株 0.00%

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
株式会社やまびこホールディングス	24,055	34.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,126	7.41
山崎 裕明	3,814	5.51
山崎 敬明	3,814	5.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,806	2.61
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	1,010	1.46
山崎 敦彦	997	1.44
野村信託銀行株式会社(投信口)	944	1.36
株式会社三井住友銀行	900	1.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	867	1.25

特集

仕濾過事 ヤマシンフィルタの歩み

第4回 「ロータリーろ紙折機の発明」



創業者 山崎正彦

昭和30年代前半に当社がT社の下請けを開始したのち、先代社長の山崎正彦はフィルタエレメントに欠かせないろ紙を必要な形状に折る、「ロータリー(回転式)ろ紙折機」を考案・製作しました。

「ロータリーろ紙折機」の自社開発は、山崎がT社の本社と工場を訪れた際、スカートのエバープリーツ*折機を改良して作られた米国製ろ紙折機を目にしたことに端を発しています。

はじめてT社工場内に足を踏み入れた際、山崎は同社のエレメントやフィルタの製造過程を目の当たりにし、その製造技術とともにすぐれた機械が導入されていることに深く感嘆しました。なかでも目を引いたのは、そこでフル稼働していた、この米国製ろ紙折機でした。

山崎は「私は驚嘆のまなざしで見ました。そして、驚嘆はやがて羨望へと変わった」と後年語っています。といいますが、当時、当社では手作業で行っていたろ紙折りは、T社ではすでに機械化されていたのです。

*

T社では形の不規則なエレメント、業界でいうところの「変形物」の注文は下請けに回すことがとても多く、またこうした変形物は必ずといっていいほど、注文数が少なかったのです。納入数が数個という場合すらありましたが、親会社からの注文とあれば断るわけにはいきません。さらに、当社は下請け以外に独自顧客からの直接注文も大切にしていました。そのため、当社が製造するエレメントは、綿糸を使ったハニカムフィルタ、ろ紙を使った自動車用エレメント、帆布を使ったエアフィルタと、さまざまな種類へと広がっていきました。

そして、この頃、多種多様な製品を手がけたことが基となり、「どんな

形・タイプのエレメントでも、顧客の要望に応える」という今日のヤマシンフィルタの企業姿勢は築かれたといえるでしょう。

*

T社工場のろ紙折機は山崎の脳裏に克明に焼き付けられ、その後も訪問するたびに目を奪われました。しかし、金額的に到底手の届くものではありません。最初は「いつか会社を大きくして、あの機械を工場に入れよう」と考えた山崎ですが、そのうち同じような機械の製作を考えるようになりました。そして、自分で作るなら、その後のろ紙の熱処理までできるようにしようと、本格的に製作に取りかかりました。

試行錯誤の末、山崎は昭和37(1962)年に自動ろ紙折機を完成、同時に初めての特許を取得しました。「ロータリーろ紙折機」と名付けられたこの機械がろ紙の折り目付けから折り作業、熱処理までの工程を担ってくれるようになったことで、当社のエレメント製造作業は大幅に簡略化されました。ろ紙において人間が行う作業は冷めたるろ紙を規定どおりに切断して円筒形に成形するだけになり、同時に不良品も激減したのです。また、当時、T社の下請けは当社全製造量の約80%を占めており、数をこなさないことには利益を生み出せなかったため、「ロータリーろ紙折機」は利益面においても非常に大きな効果をもたらしました。

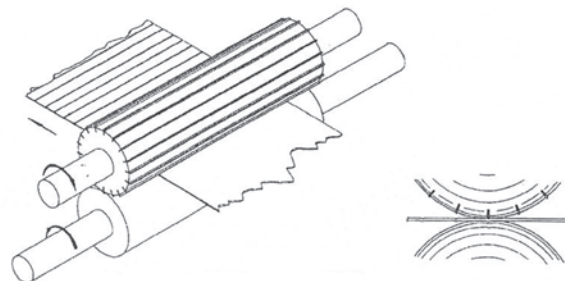
そして、同機導入を機に山崎は増産体制の構築を決意し、それまで自宅だった元芝町の家屋を壊して新工場が併設された建物に建て替え、工場の人員も大幅に増員しました。

*

しかし、まだ問題点のすべてが解決したわけではありませんでした。当時、フィルタエレメントのろ材はプリーツ状に折りたたまれた製品がほとんどでしたが、繰り返し高温・高圧のオイルをろ過していると、どうしても隣接するプリーツのろ紙同士が密着してしまい、ろ過の精度が落ちることを避けられませんでした。山崎はこの問題をエレメントに接着剤の付いた紙ベルトをかけてろ紙山を固定することで解決しました。さらにその後も改良を重ね、エレメントにベルトをかけた上に小孔の開いた紙製の外筒を覆い、よりその効果を高めました。

そして、この紙製外筒は、数年後に山崎が金属製の外筒を考案するまで、広くエレメント業界に普及することとなったのです。(続く)

*エバープリーツ=セラー服のスカートに代表されるプリーツのこと



ろ紙のロール通過